

# かながわの仲間と共に学ぶ、学び続ける

## ～社会福祉事業従事者の資質向上のための研修を通じて

2年間に及ぶコロナ禍の中、福祉・介護の現場では、感染症に対応した支援が続いています。社会福祉事業従事者（以下、福祉従事者）の仕事は対人援助が中心であるため、緊張感、閉塞感の連続といえます。それは利用者への直接支援だけでなく、福祉従事者を支える学びの機会や質にも影響しています。

本会福祉研修センター（以下、研修センター）では、学びの機会を止めないために多様な実施方法を取り入れ、分野や職種を超えて福祉従事者が共に学ぶ機会を作ってきました。本号では、研修を通じて見えてきた福祉従事者が“仲間と共に学ぶ”こと、学び続けていくことの意義について考えます。

### 研修で福祉従事者を支援する

福祉施設・事業所では、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を徹底しながら、毎日止まることなく、福祉サービスの提供をしています。福祉従事者は、目まぐるしく変わる環境のなか、本質は変わらない支援で目の前の利用者の日常生活を守り続けています。

研修センターでは、法人・事業所のサービスの質の確保に向けて、研修体系に基づき、多様な実施方法を取り入れて研修事業を継続してきました。そこには、福祉従事者が専門職として「仲間と共に学ぶ」機会を作ることが、福祉従事者を支援していくことにつながるのと考えがあるからです。

### 他者の実践を知り、専門職としての視野を広げる

「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程」は、法人・事業所の階層別研修を支援する全国共通の基幹研修です。サービス種別や職種を越えて、階層ごとに求められる福祉従事者としての基本姿勢を学び合い、専門職としての行動目標の策定を行います。

この研修では、受講者から「職場だけでは視野や考えの幅が自分の経験だけになってしまいうことに気が付

いた」「他施設での対応の仕方や苦労している点などを知ることができ、一人ではないことに気が付いた」という感想が多く聞かれます。

特に昨今は、利用者支援と感染予防の両立が求められている中で、悶々としながら業務にあたっていることがうかがえます。

「他施設の考えを聞き、意見交換することが、自施設をより良くしていく一歩と感じた」と聞かれるように、研修の中で他の状況や実践を知り、自分自身を振り返ることが、視野を広げる機会として機能するものと考えられます。

### 日常業務から離れて、自身の仕事を確認する

福祉従事者は、利用者との二者の関係による支援を基本とする対人援助職といえます。利用者への支援に正解はありません。だからこそ、日常の業務をフラットな状態で確認し、自分自身や物事を俯瞰することが大切です。

「サービス提供責任者研修」は、受講者自身が立てた訪問介護計画書を持ち寄り、アセスメントや支援内容を確認するプログラムです。受講者からは、「皆で意見を出し合うことで、利用者の声をよく聞くことの大切さを再確認した。利用者のための訪問介護計画書を作成していき

い」「介護技術研修」の受講者からは「自分では学んだ知識を正しく使えていると考えていたが、次第に自己流となっていたことを自覚できた」という感想がありました。

日常業務から一旦離れてみることで、支援者としての姿勢やより良い支援方法を再確認できることがあります。定期的にも再確認することは、対人援助職としての専門性を向上させるためにも必要な時間になります。

### 共感を生み、仕事への励みに

先に紹介した「福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程」で行う福祉従事者としての目標づくりや、「サービス提供責任者研修」での訪問介護計画書の見直し・再作成などは、学びと現場実践をつなぐことを基本としプログラムを組んでいます。



可視化して議論する場面。他の受講者の視点から気づき、自分自身について振り返る

受講者からは「お互いに目標が近く励みになった」、「意見交換した内容を明日からの仕事に生かして頑張りたい」との声が聞かれます。

組織を越えてお互いの実践に共感し合い、次の支援を考える過程は、現状から前に進む力をもらい、明日からの仕事へのモチベーションを高める効果が見られます。

### 組織を越えた「横の関係」からの学びのすすめ

組織を越えて学び合う研修の効果は、下図のとおり整理できると考えます。この効果が得られるのは、職場の同僚や上司・部下という関係ではなく、「仲間」といういわば同じ社会福祉の仕事に携わる対等な「横の関係」だからこそ、安心して本音を話したり、悩みを吐露できたりすることがあげられます。

新たな視点への気付きを得て、支援の質を振り返る。それと同時に、目標や希望の言語化ができ、自身のやり方や姿勢に自信を持つことにもつながります。日々の業務では迷いや戸惑いもありますが、そのよくな時こそ支援の基本に立ち返ることも必要です。気持ちを分かち合うこと

で、一人ではなく「仲間」とともに利用者の日常生活を支えていることを実感し、福祉従事者としてのプライドを確認することもできます。

### 研修から地域のネットワーク展開への期待

組織を越えた学び合いをさらに進めるため、介護支援専門員やサービスマンに研修企画運営に参画いただき、講師やファシリテーターなどを担っていたいでいます。現任者である講師やファシリテーターからの学びは、熟練した経験からのアドバイスを得られると同時に、視野や知見の広がり、実践知の習得、追体験などの効果が期待されます。そして、

### 組織を越えて学び合う 職場外研修(OFF-JT)を活用した効果

- ・多様な実践に触れて、視野を広げる。
- ・自身の実践を振り返り、見直す。
- ・専門職としての土台(基本姿勢、専門性の価値・倫理)を再確認する。
- ・モチベーションが高まる。

やりがい生まれる  
専門職としての資質の向上

人材の定着

自組織の人材育成計画の運用など

研修中にできたつながりが、その後の現場実践におけるネットワークとなり、さらには福祉サービスの向上や地域における支援の活性化につながる可能性も示唆されます。

研修センターでは、ファシリテーター養成など、現任者が参画する仕組みを、研修事業の展開の中で継続的に考えていきます。

### 職場外研修を活用した人材の定着

福祉従事者は、専門職として常に学び続ける姿勢を持ち続けることが必要です。それを支えることができるのが、法人・事業所における人材育成の取り組みです。

組織を越えて学び合う職場外研修の効果も踏まえて自組織の人材育成計画を運用していくことで、職員の福祉従事者としてのやりがいを生み出し、支援の質の向上と人材の定着が図られることが期待できます。

### かながわで共に学ぶ、学び続ける

約2年間に及ぶコロナ禍では、福祉従事者が人々の生活に欠かすことのできない存在であることが、あらためて社会的に認知されました。感染症がいのちや暮らしに影響する緊張感の中で、福祉従事者には、利用者の止まらない生活を支えていくことが求められます。そのため、時に原点に戻り、自らを振り返り、仲間



現任者が演習ファシリテーターとして参加し、自身の経験を受講者にフィードバックし、学びを深めていく

同士「支え励まし合うこと、そしてそれを続けていくことは、支援の質の維持・向上や自分自身を守るためにも必要なことであることが改めて確認できました。

研修センターは、これからも県域研修機関として、福祉従事者が「仲間」と共に学ぶこと、そして学び続けることができる機会を、社会福祉の現場と共に作り続けます。

(福祉研修センター)

令和4年度の研修計画は、令和4年3月中旬以降に法人への案内を予定しています。各研修情報は、福祉研修センターホームページにてご確認ください。  
<https://www.kfkc.jp/>

